



田迎の風

文責：校長 堀川 誠治

「好きな言葉は挑戦すること。」

ミラノ・コルティナ冬季五輪が2月6日から始まっています。また、共生社会の実現を目指してミラノ・コルティナパラリンピックも3月6日から始まります。スポーツ観戦が大好きな私としては、毎日のテレビが楽しみです。

ところで、皆さんは、2023年に現役を引退された車いすテニスプレイヤーの国枝慎吾選手をご存じでしょうか。現役を引退するまでに、世界大会での優勝50回、10年間世界ランキング1位、パラリンピックでの金メダル3個等、世界の多くのスポーツ選手から、「レジェンド」と言われている世界的に有名なスポーツ選手です。

今から10年以上前になりますが、ある日本の記者が当時の男子シングルス世界1位のフェデラー選手に、「なぜ日本から世界的なテニス選手が現れないのか？」という質問をしたそうです。するとフェデラー選手は、「何を言っているんだ？日本には国枝慎吾選手がいるじゃないか！」と答えました。海外での障がい者スポーツは、日本以上に広く認知されており、選手を支えるサポートも充実しています。障がいの有無に関わらず、スポーツの頂点を目指し、挑戦し続ける選手を尊敬し、応援することは当たり前なことだそうです。だからこそ、フェデラー選手の言葉があったのだと思います。当たり前のことですが、とても素敵なおことだと思います。その国枝選手が好きな言葉が「挑戦」です。

「好きな言葉は、挑戦すること。常にチャレンジして、決断して、行動してきた。それはこれからもしていく。」（国枝慎吾）

国枝選手が、世界最高のテニスプレイヤーになるために、どれだけ挑戦し、努力をされてきたのか、考えるだけで頭が下がります。



「挑戦し、決断し、行動する。」言葉にすると簡単そうに見えますが、なかなかできることではありません。しかし、「自分のやってみたいこと」や「好きなこと」に、一生懸命に取り組む体験を積み重ねることが、「挑戦し、決断し、行動する」ことにつながると思います。

3学期も残り少しくなりました。今の学年の仕上げを行い、次の学年や新しいステージに向けて、「自分のやってみたいこと」や「好きなこと」に思いっきり挑戦してほしいと思います。

【学校からのお願い】

○インフルエンザが流行しています。年度末の大切な時期です。手洗いやうがい、必要に応じてマスクの着用等、基本的な感染症対策の徹底をお願いいたします。

○学校外での子どもたちの過ごし方について、近隣の皆様から相談があります。改めて以下のことについて、ご家庭でもご指導をよろしくお願いいたします。

- ・公園のもの（プランターや遊具等）を大切に使う。 ・公園にゴミを散らかさない。
- ・他人の敷地内に入らない。 ・他人に迷惑をかける遊びをしない。

裏面もご覧ください。

家庭で「根っこ」を育て、学校で「枝葉」を伸ばし、地域で「花」を咲かせる

本校では、「たっちゃんパワー（自分をのばす力×友達とつながる力）」の育成を、学校教育の中心に据え、子どもたち一人一人が自分らしく輝きながら成長できる学校づくりに取り組んでいます。

＜自分をのばす力＞ ①あきらめずにがんばる力 ②やってみようとする力 ③自分のこととする力
＜友達とつながる力＞ ④目と耳と心で話を聞く力 ⑤友達の気持ちをわかろうとする力

これらの力は、未来を生きる子どもたちの今を支える「生きる力」そのものです。

そしてその原点となるものが、「家庭教育」です。

教育基本法 第10条には、家庭が子どもの教育の基盤となることが示されています。

＜教育基本法 第10条＞

「父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。」

家庭での生活の中で交わされる言葉や関わりが、子どもの心の土台を作ります。そして、家庭で育まれた安心感や規範意識、人を思いやる気持ちがあるからこそ、子どもたちは学校で安心して挑戦し、友達と学び合いながら、その力を大きく伸ばしていきます。

その一方で、教育基本法第13条には、次のようにも示されています。

＜教育基本法 第13条＞

「学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力に努めるものとする。」

このように、子どものよりよい成長のためには、家庭教育を基本とし、学校教育や地域教育が連携し、みんなで協力しながら教育に取り組むことが大切です。

家庭で「根っこ」を育て、学校で「枝葉」を伸ばし、地域で「花」を咲かせる。子どもたちを中心にみんなで取り組むことで、「たっちゃんパワー」が確かな力となります。

そこで、毎日の生活の中で、ご家庭でぜひ大切にしていきたいことがあります。

①よいことは「よい」、悪いことは「悪い」と伝える

- ・善悪の基準をはっきり示すことが、思いやりや社会のルールを守る心を育てます。
- ・人と気持ちよく関わる土台になります。

②おとなが手本となり、あいさつや感謝を大切にする

- ・明るいあいさつは、おとなも子どもも笑顔になります。
- ・温かなコミュニケーションが、人と関わる力を伸ばします。



③失敗してもがんばりを認め、挑戦を応援する

- ・「大丈夫」「よくがんばったね」の一言が、自己肯定感を育てます。
- ・認められたという安心感が、新しいことに挑む勇気と最後までやり抜く強さにつながります。

どれも特別なことではありません。毎日の暮らしの中の小さな積み重ねこそが、「たっちゃんパワー」の源です。子どもたちの幸せを願う思いは、学校も保護者の皆様も変わりません。同じ願いをもつ「子育てのパートナー」として、これからもご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

表面もご覧ください。